

アルコール不安定乳発生への対応

：長野県飯田家保 常田将宏

管内 A 農家にてアルコール不安定乳発生。関係機関と原因調査。搾乳牛 46 頭中 16 頭の個体乳にてアルコール検査陽性。生乳中の体細胞数及び細菌検査の結果、乳房炎罹患の有無とは関係なし。代謝プロファイルテストにて HCT 及び BUN の低値以外は概ね正常。バルク乳成分は MUN が低値のほか、発生前の乳蛋白が低値。飼料中の TDN、CP 不足と推察。給与飼料は農家提供のコーンサイレージを中心に飼料会社が TMR を調整して給与。飼料計算上 TDN、CP は概ね充足していたことから、TMR 中コーンサイレージの変敗を疑う。その後、コーンサイレージを飼料会社提供の乾草に変更。数日でアルコール検査陰性となった。アルコール不安定乳はバルク全体が集乳不可となり、経済的被害が大きい。長年散発的に被害がある一方、発生前の兆候がつかみにくく、知見は非常に少ない。さらなる調査による知見の積み上げが今後の被害低減には重要である。